

Press Release



2021年3月3日

コベストロジャパン株式会社

このプレスリリースは2月23日にドイツ・コベストロ社が発表したものを日本語に翻訳したもので、報道関係者各位へ参考資料として提供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語を優先します。原文は www.covestro.com をご参照ください。

2020年度：下半期業績が大幅改善

コベストロ、2020年という異例の環境を乗り切る

- 主要製品販売量は5.6%減少
- グループ売上高は約107億ユーロ（13.7%減）
- EBITDAは予想通り約15億ユーロ（8.2%減）
- フリー・オペレーティング・キャッシュフローは5億3千万ユーロ（12.1%増）
- 新配当方針に基づき、1株1.30ユーロの配当金を提案
- サークュラーエコノミー実現に向けて戦略を再構築
- 2021年度：パンデミック前のレベルを上回る通期業績を予想

2020年は異例の環境下でしたが、コベストロはこれを克服し、特に下半期には、一貫した危機管理対応と需要回復が好業績に寄与しました。第4四半期は極めて好調であったものの、上半期の6か月間で生じたパンデミックに伴うグループの甚大な減収を完全にカバーするには至りませんでした。2020年のグループの主要製品販売量は、前年比で5.6%減少しました。また、グループの売上高も減少し、前年比13.7%減の約107億ユーロとなりました。一方、広範囲にわたるコスト削減策を実施した結果、コベストロはEBITDAの減少を前年比8.2%減に食い止め、2020年度のEBITDAは予想通りの約15億ユーロを確保しました（2019年度は約16億ユーロ）。純利益は4億5千900万ユーロ（16.8%減）にとどまった一方で、フリー・オペレーティング・キャッシュ・フロー（FOCF）は5億3千万ユーロ（12.1%増）に達しました。

コベストロ CEO のマークス・スタイレマンは、「極めて異例の環境に直面した 1 年間でしたが、当社はこれを無事乗り切るとともに、危機に即時に対応できる体制を整えました。様々な施策を実施することで、従業員を守るとともに、サプライチェーンを維持しながら、流動性を一層高めました。また、2020 年度は当社の戦略を推し進めることができた 1 年といえます。当社は『We will be fully circular』という新たなビジョンを策定し、さらに、既に発表済みの DSM 社からのレジンス&ファンクショナルマテリアルズ事業の買収により、この新たなビジョンに向けて大きな一歩を踏み出しました」と述べています。

コベストロは、「We will be fully circular」という新たなビジョンを 2020 年初めに発表しました。この長期ビジョンを実現し、事業活動の全エリアでサーキュラリティ（循環性）を構築するため、グループでは、代替原料、革新的なリサイクリング、ソリューションの共同開発、再生可能エネルギーの 4 つのテーマに重点を置くことを決定しました。

一貫した施策による堅調な業績

コベストロ CFO のトーマス・トゥプファーは、「効果的な対策を早期に講じたことが堅調な業績に大きく寄与しました。年度半ばで需要が大幅に回復したことを受けて、下半期には成長軌道に戻り、前年度とほぼ同水準の利益を達成することができました。当社を取り巻く環境は依然として不確実であることから、今後も高いコスト意識を持ち、効率性の向上に努めます。また、高い価値を生み出すため、顧客志向をさらに徹底していきます」と述べています。

コベストロは、コロナウイルスのパンデミックが続く中においても高い健全性と流動性を確保するため、昨年、コスト削減策を多数追加実施しました。その結果、グループは短期間で合計 3 億 6 千万ユーロに達するコストを削減しました。2018 年に開始した効率化プログラム「Perspective」も 2020 年度の 1 億 3 千万ユーロのコスト削減に寄与し、既に発表した通り、年度末に同プログラムは終了しました。

また、コベストロは、2020 年に様々な資金調達を実施しました。グループでは、実施にあたり、可能な限りサステナビリティに関する成果に結び付くように調達手段を選択し、サステナブルな成長の実現にコミットしています。例えば、当社は 2020 年 3 月に 25 億ユーロのシンジケートローン契約を締結しましたが、この契約は環境、社会、ガバナンス（ESG）の評価と連動しています。そのため、コベストロによる ESG に関するパフォーマンスが優れているほど、ローン契約の利息部分が低減されます。

戦略の再構築：これからの方向性を示すビジョン

「We will be fully circular」という新たなビジョンの下、目まぐるしく変わるマーケットの期待に応えられるように、コベストロはグループ戦略を再構築します。

より顧客志向の意識を高め、サステナブルな成長を目指すため、2021年7月1日より、コベストロは、新たな7つの事業体のもとで、ビジネスを行います。この組織は、顧客ニーズと競争環境に合致したものになります。大別すると「Performance Materials」と「Solutions & Specialties」の2つの事業領域に分けられます。

- **Performance Materials** : この事業領域は単独の1つの事業体によって構成され、スタンダードポリカーボネート、スタンダードウレタン製品、基礎化学品を事業内容とします。
- **Solutions and Specialties** : この事業領域は6つの新しい事業体 (Tailored Urethanes, Coatings and Adhesives, Engineering Plastics, Specialty Films, Elastomers, Thermoplastic Polyurethanes) によって構成されます。

コベストロは、収益性を確保した上で、製品・プロセスを顧客のニーズに合致させるとともに、サステナビリティの取り組みにさらに注力します。今後、グループは、投資、買収、研究開発活動を行う際には、サステナビリティの基準をより厳格に適用します。サーキュラーエコノミーへの移行の一環として、コベストロはサーキュラーエコノミーに合致した製品のポートフォリオ拡大を進めます。

CEOのスタイレマンは、「『We will be fully circular』という当社のビジョンは、新しいグループ戦略の方向性を示しています。そして、組織再編により、将来に向かってスタートを切ることができ、飛躍的に競争力を高めるチャンスを手に入れます。さらには、顧客のニーズを満たし、より効率的かつ効果的に事業を運営し、サステナブルな成長を実現することも可能になります。当社は、サーキュラーエコノミーの実現に向けた変革を着実に推進しています」と述べています。

グループの利益をさらに重視した新配当方針

コベストロは、新基準で配当性向を設定しています。新配当方針では、基準としてグループの利益をさらに重視し、配当性向をグループ純利益の35%~55%とします。CFOのトゥプファーは、「この配当方針は、コベストロ全体の財政状態とより密接に結び付いており、好調な利益を計上した年度には配当金を増額することができます」と述べています。最新の業績に基づき、コ

ベストロは 2020 年度の配当金として 1 株 1.30 ユーロの支払いを予定しています。これは配当性向 55%に相当します。

2021 年度見通し：パンデミック前の 2019 年のレベルを上回る通期業績予想

2021 年度において、コベストロは主要製品販売量の成長率を 10%~15%と見込んでいます。この成長率のうち約 6%分は、予定されている DSM 社からのレジンス&ファンクショナルマテリアルズ (RFM) 事業買収 (既発表) に伴う販売量増加によるものです。さらに、コベストロは、FOCF が 9~14 億ユーロに達し、ROCE は 7%~12%になると予想しています。2021 年通期のグループの EBITDA は 17~22 億ユーロを見込んでいます。2021 年第 1 四半期の EBITDA は 7 億~7 億 8 千万ユーロと予想しています。

2020 年下半年に全事業で需要が回復

2020 年度のポリウレタン事業の主要製品販売量は、前年比で 6.1%減少しました。コロナウイルスのパンデミックにより上半期の需要が大きく落ち込みましたが、その後、下半期には需要の急回復と優位な競争環境により、主要製品販売量は増加に転じました。通期の売上高は 13.1%減の 50 億ユーロとなりましたが、主な理由は年間の平均販売価格の下落と総販売量の減少です。EBITDA も、販売量減少の影響を受けて 3.5%減の 6 億 2 千 5 百万ユーロとなりました。その一方で、一連の施策によるコスト削減は EBITDA にプラスの効果をもたらしました。

2020 年度のポリカーボネート事業の主要製品販売量は、前年比で 3.0%減少しました。上半期には、パンデミックにより需要が大きく冷え込みました。これに対して、下半期には需要が力強く回復し、前年度を上回る水準まで主要製品販売量を押し上げました。売上高は 14.1%減の 30 億ユーロとなりました。これは、主として販売価格の下落と総販売量の減少によるものです。一方、EBITDA は 3.2%改善し、5 億 5 千 300 万ユーロとなりました。このポジティブな傾向は、主に原材料価格の低下とコスト削減策の寄与が理由です。

2020 年度の塗料・接着剤・スペシャリティーズ事業の主要製品販売量は、前年比で 8.9%減少しました。2020 年上半期には、コロナウイルスのパンデミックによる需要の急激な落ち込みが原因で、主要製品販売量が大幅に減少しましたが、年末までに需要は回復し、2020 年第 4 四半期の主要製品販売量は、前年同期を上回りました。通期の売上高は 13.9%減の 20 億ユーロとなり、総販売量の減少と平均販売価格の低下が主な原因となっています。EBITDA は 27.3%減の 3 億 4 千 100 万ユーロとなりました。これは、販売量の減少、利益率の低下および RFM 事業買収に伴う支出によるものです。その一方で、コスト削減策の実施が利益にプラスの影響をもたらしまし

た。なお、前年度の EBITDA は、ディーアイシー コベストロ ポリマー株式会社の株式の段階取得で生じた一時的な効果によってプラスの影響を受けています。

2020 年第 4 四半期は前年レベルを上回る

2020 年第 4 四半期の主要製品販売量は、前年同期比で 1.7%増加しました。さらに、販売価格上昇の効果もあり、グループ売上高は 5.0%増加し、30 億ユーロに達しました。2020 年第 4 四半期の EBITDA は、前年同期の倍を上回る 6 億 3 千 7 百万ユーロとなりました。純利益は、前年同期の 3 千 7 百万ユーロから 3 億 1 千 2 百万ユーロへと目覚ましい伸びを示しました。これを受けて、第 4 四半期の FOCF も 19.4%増加し、3 億 9 千 4 百万ユーロとなりました。

コベストロ社について

コベストロ社は 2020 年売上高が 107 億ユーロの世界最大のポリマー製造企業のひとつです。主たる活動分野は、高機能ポリマー材料の生産、および日常生活の多くの分野で使用されている製品の革新的ソリューションの開発です。主要な顧客は、自動車、建築、木材加工や家具、電気・電子、スポーツ・レジャー、コスメティック、ヘルスケア、そして化学の各産業です。コベストロ社は、世界中の 33 拠点に生産施設があり、社員数は 2020 年末で約 16,500 人です。詳しくはこちらをご覧ください。 www.covestro.jp, Twitter: <https://twitter.com/covestro>

【この件に関するお問い合わせ先】

コベストロジャパン株式会社

〒105-0011 東京都港区芝公園 1-7-6 KDX 浜松町プレイス 7F

広報部 大槻 Tel:03-6403-9112 / Fax:03-3436-1540

コベストログループの主要データ

	2019	2020	前年比
	(百万ユーロ)	(百万ユーロ)	%
主要製品販売量	+2.0%	-5.6%	
売上高	12,412	10,706	-13.7
売上高差異			
販売量要因	+0.8%	-5.1%	
価格要因	-17.3%	-5.7%	
為替要因	+1.9%	-1.6%	
製品構成要因	-0.5%	-1.3%	
EBITDA ※1	1,604	1,472	-8.2
EBIT ※2	852	696	-18.3
当期純利益	552	459	-16.8
フリー・オペレーティング・キャッシュフロー	473	530	+12.1

※2020年12月31日付（前年同月同日比）

※1 金利・税金・償却前利益

※2 金利・税引前利益

将来予想に関する記述（Forward-Looking Statements）

このニュースリリースには、コベストロ社による現在の試算および予測に基づく将来予想に関する記述（Forward-Looking Statements）が含まれている可能性があります。さまざまな既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因により、将来の実績、財務状況、企業の動向または業績と、当文書における予測との間に大きな相違が生じることがあります。これらの要因にはコベストロのウェブサイト（www.covestro.com）に公開されている報告書に説明されているものが含まれます。コベストロは、これらの将来予想に関する記述を更新し、将来の出来事または情勢に適合させる責任を負うものではありません。